

事項	アスパラガスのネキリムシ類に対するペルメトリン粒剤（ガードベイトA）による防除法		
ねらい	アスパラガスのネキリムシ類に対する防除薬剤は防除指針には掲載されていなかったが、ペルメトリン粒剤について検討した結果、安定した効果が認められたので参考に供する。		
指導参考内容	<p>1 ペルメトリン粒剤の使用方法</p> <p>(1) 処理方法：作物の地際の地表面に散布する</p> <p>(2) 処理量：3 kg/10 a</p> <p>(3) 処理時期：収穫前日まで</p> <p>2 ペルメトリン粒剤の登録内容</p> <p>(1) 薬剤名</p> <p>ア 一般名：ペルメトリン粒剤</p> <p>イ 商品名：ガードベイトA</p> <p>ウ 有効成分：ペルメトリン 0.1%</p> <p>エ 作用性：食毒</p> <p>オ 人畜毒性：普通物</p> <p>カ 魚毒性：C類</p> <p>(2) 使用基準</p> <p>ア 適用害虫：アスパラガスのネキリムシ類</p> <p>イ 使用量：3 kg/10 a</p> <p>ウ 使用方法：散布</p> <p>エ 使用時期：収穫前日まで</p> <p>オ 使用回数：3回以内</p> <p>カ 成分総使用回数：3回以内</p>		
期待される成果	ネキリムシ類による被害が軽減され、安定生産に寄与する。		
利用上の注意事項	<p>1 本資料は平成19年3月1日現在の農薬登録に基づいて作成した。</p> <p>2 農薬を使用する場合は、必ず最新の「農薬登録情報」(<a href="http://www.maff.go.jp/nouyaku/">http://www.maff.go.jp/nouyaku/</a>)を確認すること。</p> <p>3 使用上の留意事項を遵守する。</p> <p>4 ペルメトリン含有剤は、アスパラガスに登録のある散布剤としてアディオン乳剤もあるので、総使用回数に注意すること。総使用回数は前年の収穫終了から、本年の収穫終了までの使用回数のことである。</p>		
担当部署 (担当者名)	青森県農林総合研究センター 病害虫防除室 (市田忠夫)	対象地域	県下全域
発表文献等	平成16年度 青森県農林総合研究センター試験成績概要集		

【根拠となった主要な試験結果】

表1 アスパラガスのネキリムシ類に対するガードベイトAの防除効果 (平成16年青森農林総研)

区分	調査 茎数	放虫4日後(10/8)		放虫7日後(10/11)		放虫10日後(10/14)		薬害	
		被害株数	消滅株数	被害株数	消滅株数	被害株数	消滅株数		
ガードベイトA 3kg/10a	A区	16	0	0	0	0	0	—	
	B区	16	0	0	0	0	0		
	C区	16	0	0	0	0	0		
	平均	16.0	0	0	0	0	0		
無処理	A区	16	4	0	15	0	15	2	
	B区	16	6	0	15	0	15	0	
	C区	16	8	0	14	3	15	4	
	平均	16.0	6.0	0.0	14.7	1.0	15.0	2.0	
区分	茎数の推移				茎数の増減率			10日後 生存幼虫数	
	放飼前	4日後	7日後	10日後	4日後	7日後	10日後		
ガードベイトA 3kg/10a	A区	43	43	44	52	100	102	121	0
	B区	50	53	54	62	106	108	124	0
	C区	52	56	56	63	108	108	121	0
	平均	48.3	50.7	51.3	59.0	105(100)	106(100)	122(100)	0
無処理	A区	47	46	41	30	98	87	64	10
	B区	50	53	48	40	106	96	80	8
	C区	47	44	33	29	94	70	62	9
	平均	48.0	47.7	39.7	33.0	99(95)	84(78)	69(56)	9.0

(注) 試験場所: 黒石市境松(センター内ビニールハウス)、品種: 刈一ワシントン、播種: 8月16日、移植: 10月1日  
 耕起後乾燥し雑草のないハウスに1辺1mに畦畔シートを埋め込み、灌水して苗を20cm間隔格子状に16株移植  
 移植3日後の10月4日昼に、散布区に薬剤を散布し、同日昼に各区中央に6齢直前のカブラヤガ幼虫20頭を、  
 250mlのバーミキュライトとともに放虫、放飼4、7、10日後に5cm以上の茎数と被害の有無を調査、  
 10日後の調査後に区内の土壌を5cm程度の深さまで移植ベラで掘り起こし、生存幼虫数を調査

表2 アスパラガスのネキリムシ類に対するガードベイトAの防除効果 (平成16年鹿児島農試大隅支場)

区分	被害茎数					調査終了時生存数(6/4)		薬害
	処理前(5/21)	3日後(5/24)	6日後(5/27)	10日後(5/31)	14日後(6/4)	生存幼虫数	幼虫死亡率	
ガードベイトA	0	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	97.5	--
無処理	0	3.5	5.0	7.5	8.5	10.5	47.5	

(注) 試験場所: 鹿児島県串良町大隅支場内ハウス、品種: グリーンタワー、定植: 15年4月11日、畝間: 100cm、株間: 25cm  
 1区1㎡(1畝2m×0.5m、6株)、2辺幅、区間を畦畔シートで仕切り、雑草を除去してから、5月21日に薬剤を散布、  
 薬剤散布後に各区20頭のカブラヤガ幼虫を放飼。処理後被害芽数を調査し、14日後には株元を掘り生存虫数を調査

(参考) ガードベイトA : 1袋(2kg) 約910円 約1,370円/10a